

I わたしたちのくらしと水道水

水道水はどんなはたらきをするか

家庭での水道水の使われ方

学校での水道水の使われ方

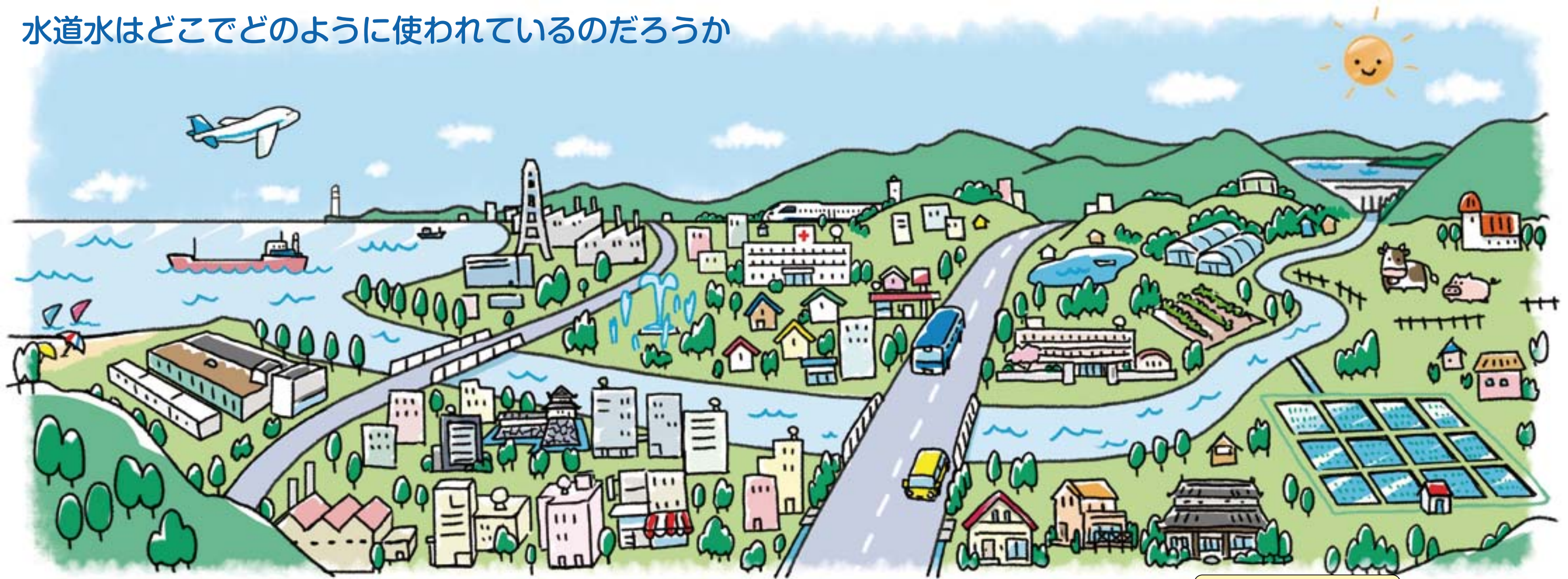


まちでの水道水の使われ方



いろいろな場所で
水道水が使われて
いるんだね！

水道水はどこでどのように使われているのだろうか



1日に使われる水道水の量はプール何はい分かな？
大分市全体の1日分が約123,987^{やく}m³

(令和3年度)

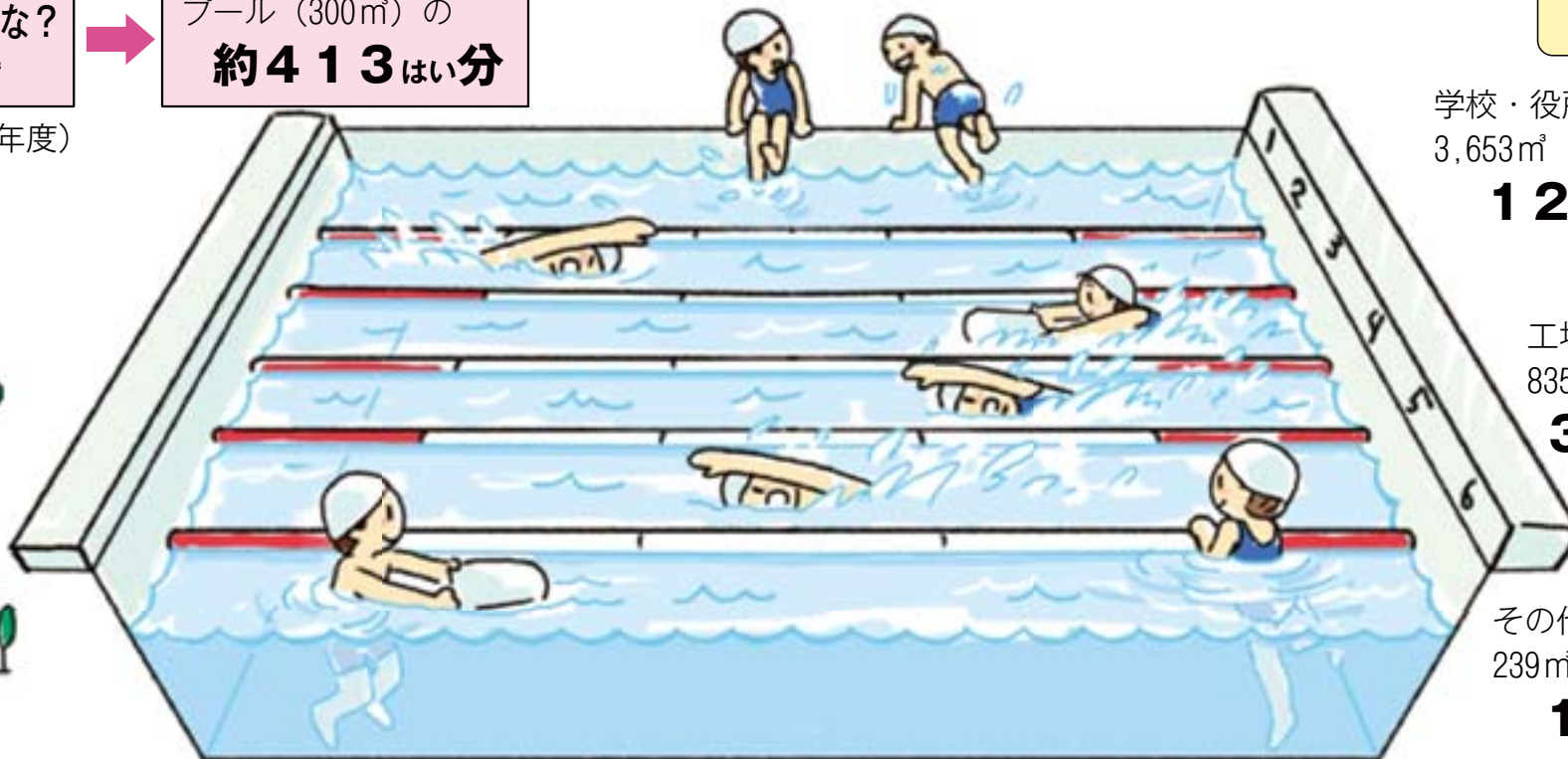
プール (300m³) の
約413はい分

家庭で
105,844m³

353はい

会社・病院・店などで
13,416m³

44はい



ひこうき
飛行機や電車や船なども
水道水を使うのかな

学校・役所などで
3,653m³

12はい



工場で
835m³

3はい

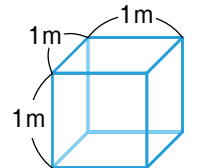


その他
239m³

1はい

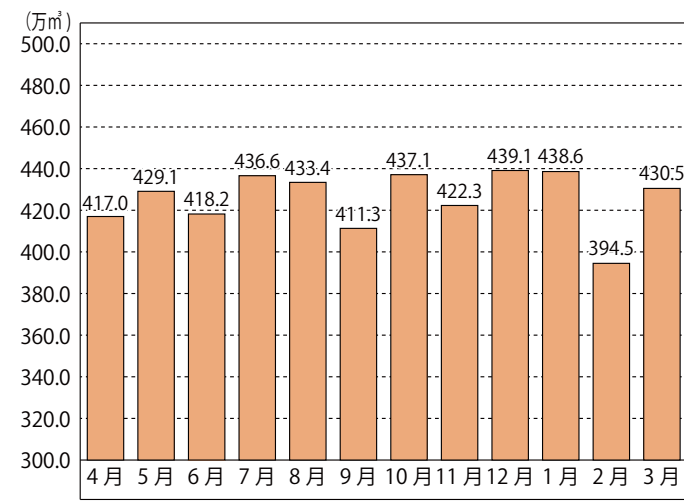


※m³ (立方メートル)
たて、横、高さがそれぞれ1mのようきに入る量を1m³といいます。



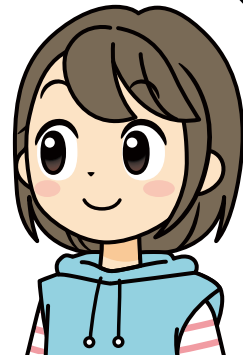
大分市で使う水道水の量

月ごとに使う水道水の量 (令和3年度)

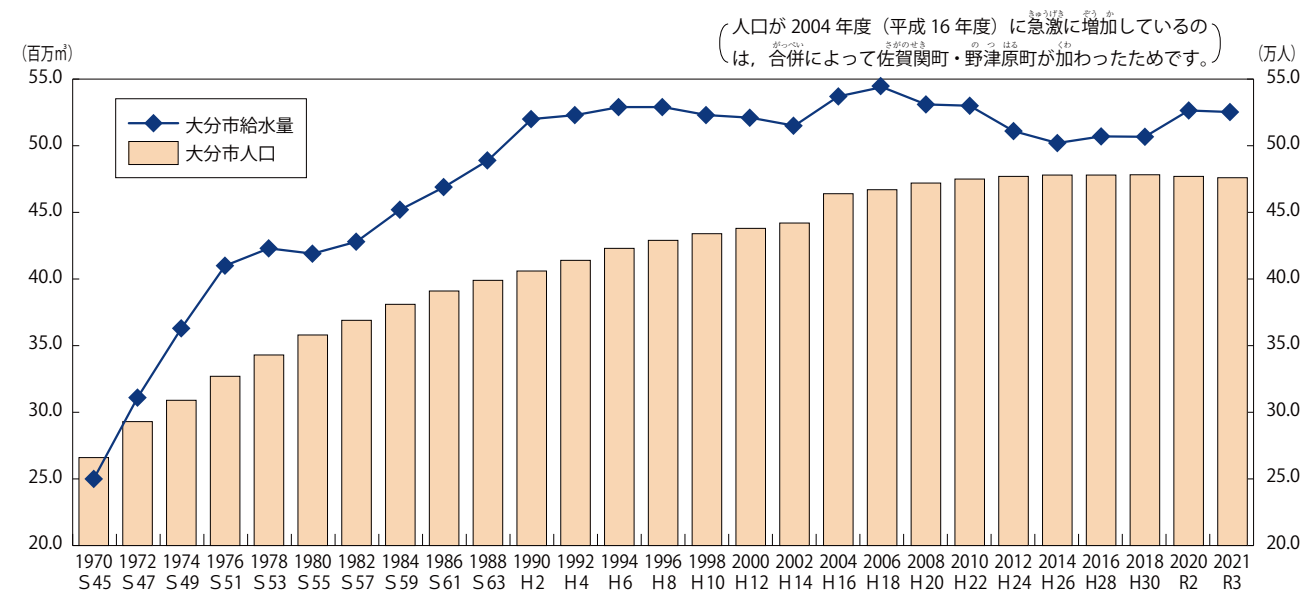


月平均の使用量 426万m³
プールの約 14,190 はい分

大分市の給水量は
どのようにかわって
いるのかな



大分市の給水量の変化と人口



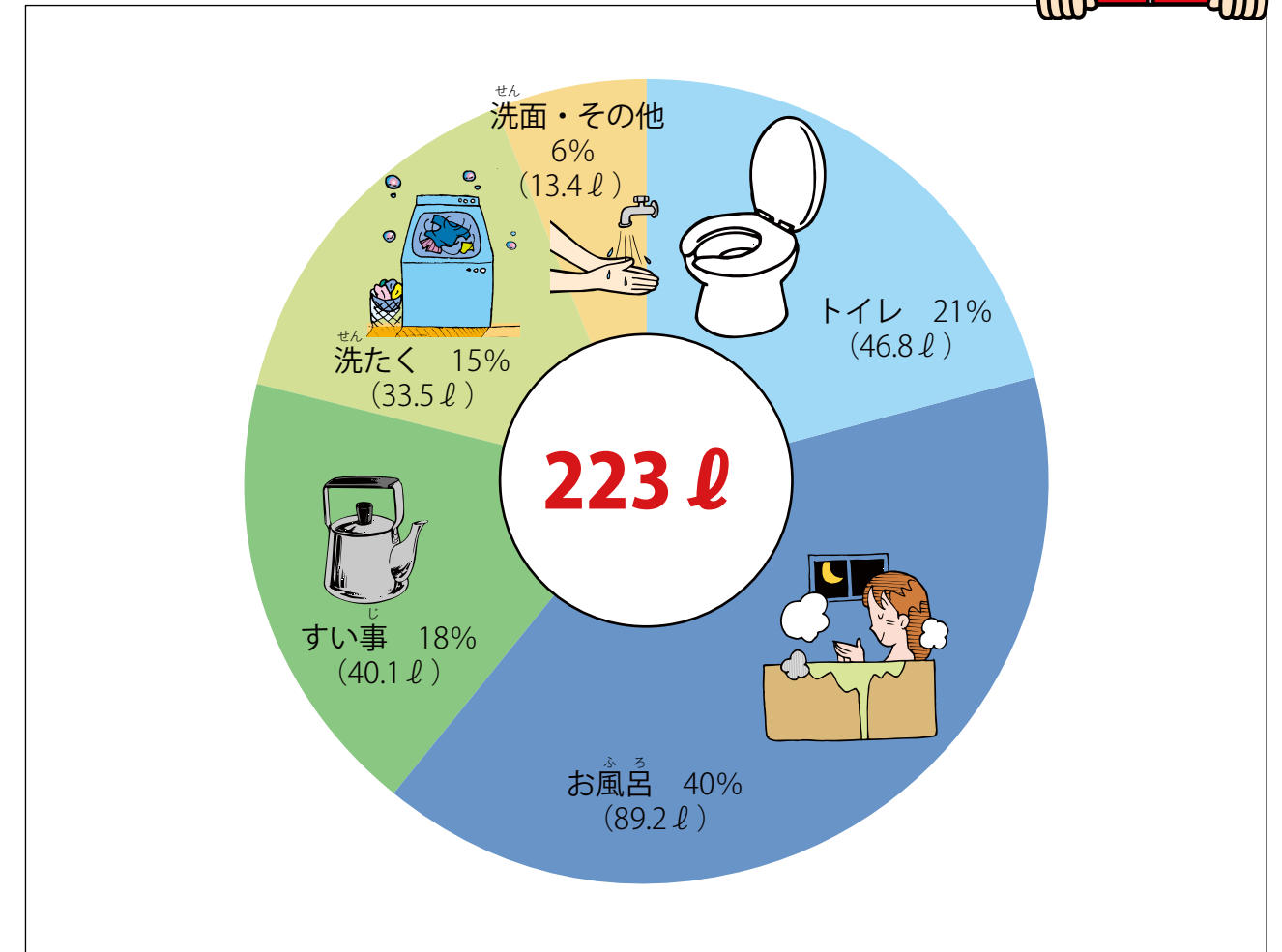
年度	S45	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63
給水量 (百万m ³)	25.0	27.7	31.1	34.6	36.3	40.2	41.0	41.4	42.3	43.0	41.9	43.6	42.8	44.6	45.2	45.8	46.9	47.9	48.9
行政人口 (万人)	26.6	27.9	29.3	29.9	30.9	31.9	32.7	33.5	34.3	35.1	35.8	36.4	36.9	37.5	38.1	38.7	39.1	39.4	39.9

年度	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
給水量 (百万m ³)	50.0	52.0	52.3	52.3	51.8	52.9	52.6	52.9	52.3	52.3	51.7	52.1	52.0	51.5	51.3	53.7	54.9	54.4	54.6	53.1	52.5	53.0	52.2	51.1	51.2	50.2	50.0	50.7	50.7	
行政人口 (万人)	40.3	40.6	41.1	41.4	41.8	42.3	42.6	42.9	43.2	43.4	43.6	43.8	44.0	44.2	44.4	46.4	46.5	46.7	47.0	47.2	47.3	47.5	47.6	47.7	47.8	47.8	47.8	47.8	47.8	

年度	R1	R2	R3
給水量 (百万m ³)	50.0	51.3	51.1
行政人口 (万人)	47.7	47.7	47.6

家庭で1人が1日に使った 水道水の量はどれくらいになるか

考えてみると
1日中使っているぞ



バケツ (8ℓ) でならべると



やく
約28はい

水道水の使い方の変化

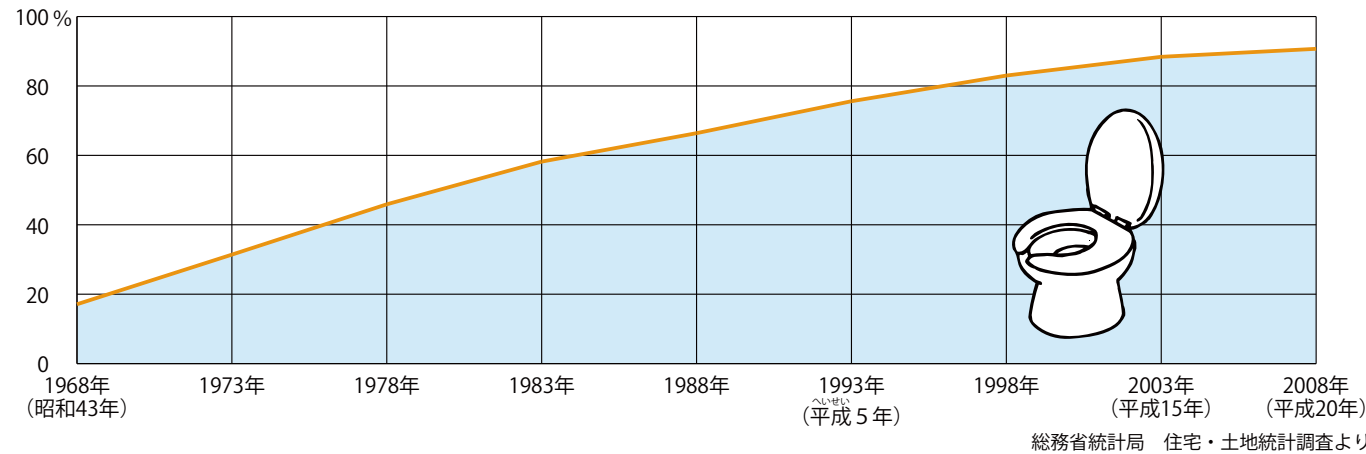
水道ができる前



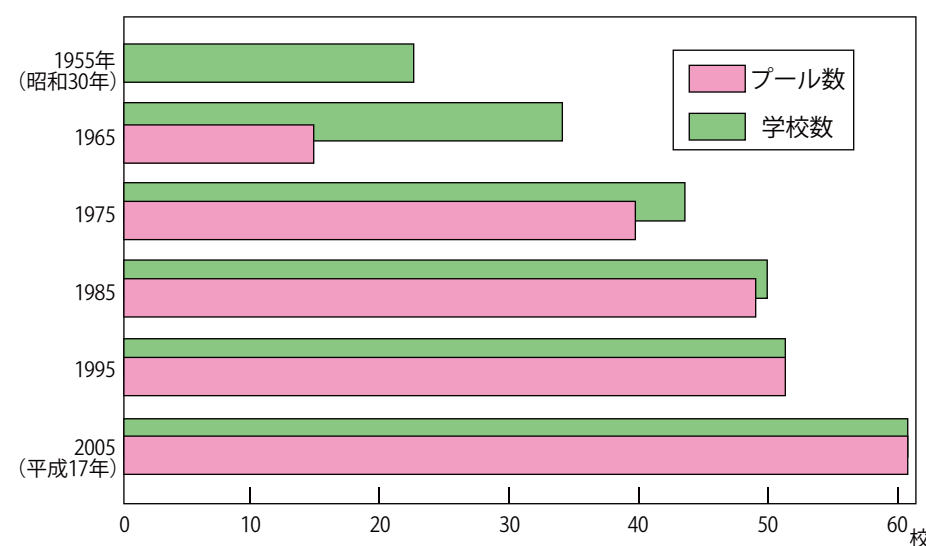
水道ができてから



水洗トイレを使う戸数割合の変化（全国）



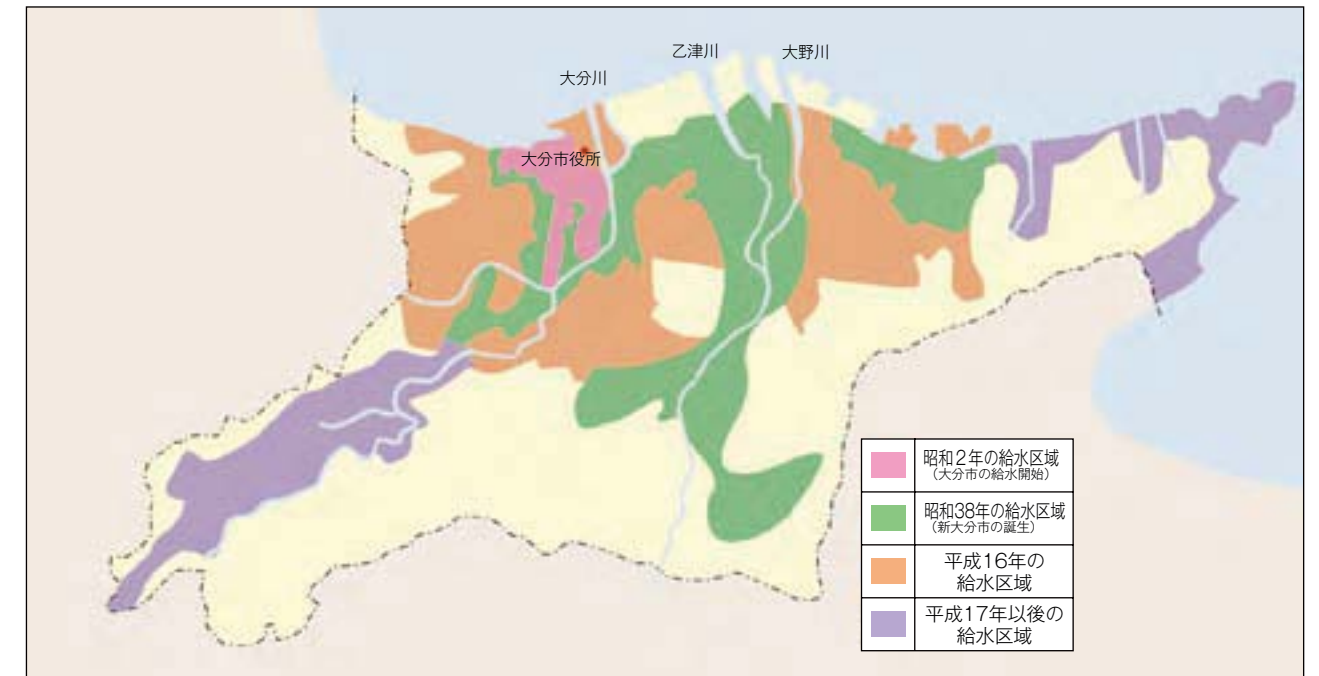
プールのある学校数（小学校）の変化（大分市）



給水量が増えたわけは1つじゃないんだな



給水区域の広がり



水のはなし

じゃ口をひねるとかんたんに水が出る水道、わたしたちは苦労もなく水道水を使うことができます。水道水は、わたしたちの暮らしをささえる大切なはたらきをしていますが、水道ができる前の人々は、どこから水をえていたのでしょうか。

昔の人は川の水を使ったり井戸をほって地下水をくみあげて使っていました。川は上流まで行かないと、きれいな水がくめません。井戸水も「つるべ」でくみあげて使っていました。町に住んでいる人々の中には、川の上流で水をくみ、その水を売りにきた「水屋」さんから買う人もたくさんいたそうです。水を「つるべ」でくみあげるのも、水おけで運ぶのも力のいるつらい仕事ですが、子どもがしていたといいます。また自然の水を使うことは心配もありました。雨がふり続けると水がにごったり、体の害になるものや、ばい菌がまじったりします。大分が市になった明治44年当時は赤痢や腸チフスなどの伝せん病にかかった人が40名（うち死者5名）、次の年には73名（うち死者15名）と、水がもとで病気になる人も多くいました。

昭和2年7月に大分市にはじめての浄水場「三芳浄水場」ができ、家庭に水道水が届けられるようになりました。はじめは、つくれる水の量も少なく、わずかな家庭しか利用できなかった水道も、今では、ほとんどの家庭にいきわたるようになりました。

水道のじゃ口をひねるとすぐに出てくる便利な水道水も昔の人の苦労を考えると、大事にしなければいけませんね。

